

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文学部、人文科学研究科	3
2. 教育学部、教育学研究科	5
3. 経済学部、経済学研究科	8
4. 理学部	10
5. 医学部、医学系研究科	12
6. 工学部	15
7. 農学部	18
8. 創成科学研究科	21
9. 共同獣医学部、共同獣医学研究科	24
10. 国際総合科学部	27
11. 東アジア研究科	29
12. 技術経営研究科	32

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文学部、人文科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部、教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済学部、経済学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部、医学系研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
工学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
農学部	【2】	相応の質にある	【3】	高い質にある
創成科学研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
共同獣医学部、共同獣医学研究科	【3】	高い質にある	【3】	高い質にある
国際総合科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
東アジア研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
技術経営研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 人文学部、人文科学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「山口学研究センター」は、学部横断的な全学センターであり、大学と行政、地域社会が協働して、山口県の自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進し、地域の魅力の再発見と地域社会の活性化に寄与することを目的としている。人文学部、人文科学研究科では、2016年度（平成28年度）より次の2つの研究プロジェクトに3名の教員が参加して、地域の課題解決に向けた学際的研究を進めている。
- 人文学部、人文科学研究科の専任教員は、各専門分野において、地域連携による研究活動に継続的に参加しており、地方自治体が行う地方史の編纂、その他の調査員・審議会委員や共同研究等において主導的な役割を果たしている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、3件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 2. 教育学部、教育学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 7 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

### 〔優れた点〕

- 「附属学校園との共同研究」である学部附属共同研究プロジェクトは、主に各教科・領域の学部教員とその教科・領域を担当する附属学校教員がプロジェクトチームを編成し、教科・領域等の指導の充実などに資する共同研究を進めるものである。このプロジェクト研究は、学部附属教育実践総合センターが学部教員に対して公募し、研究内容のヒアリングを行った上で、学部長裁量経費を配分することにより、附属学校園との共同研究が促進されるよう継続して支援を行っている。その結果、年間の平均プロジェクト件数は、第2期中期目標期間の11件から第3期中期目標期間では15件に増加している。これに加えて、令和元年度より、若手の研究者を対象として、山口県の教育・学習・人材育成に寄与するプロジェクト研究に対し、学部長裁量経費による支援を行っている。

### 〔特色ある点〕

- 独立行政法人教職員支援機構の「教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」において、教職大学院と教育委員会の連携によるミドルリーダー養成研修プログラムの開発を行っている。また、山口県が設置する教育に関する研究及び教育関係職員の研修を行う機関である「やまぐち総合教育支援センター」と連携し、ICT活用指導力向上、深い学びの過程を通じた理科教育指導法、プログラミング的思考に基づく教科横断的な各教科の見方・考え方を働かせる授業づくりに関する調査研究を共同で実施している。



**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

### 3. 経済学部、経済学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 9 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 9 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「山口学研究センター」は、学部横断的な全学センターであり、大学と行政、地域社会が協働して、山口県の自然・文化・歴史・産業・観光・流通・教育等に関する研究を推進し、地域の魅力の再発見と地域社会の活性化に寄与することを目的としている。経済学部、経済学研究科では、研究代表者として2つの研究プロジェクトに参画した。
- 歴史資料等保有施設として指定を受けた東亜経済研究所があり、戦前期に収集された中国経済誌・経済事情・地誌などの貴重な資料を所有し、研究用資料の利活用が可能となっている。これらの貴重資料の保存と学内外からの利活用を促進するため、地域ごとにアルファベットで分類された資料のうち、「B 分類（朝鮮・台湾）」の全ての資料 953 冊のデジタル化を進め、2019 年度（令和元年度）から図書館のホームページに「貴重資料デジタルコレクション」として公開している。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

#### 4. 理学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 11 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 11 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域発科学技術イノベーションを牽引する応用研究・共同研究の推進を目的として、先進科学・イノベーション研究センターを設置している。

先進科学・イノベーション研究センターの研究拠点の一つである「中高温微生物研究センター」は、発酵微生物、病原微生物、環境微生物の3分野からなり、山口大学のすべての理系学部から微生物学研究者が参加する「統合微生物学」拠点として、また「中高温微生物」研究拠点として展開している。理学部の生物学分野の教員は、環境微生物部門に所属し、民間企業と共同研究を進めている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、5件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 5. 医学部、医学系研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 13 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 14 )

**分析項目 I 研究活動の状況****〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

研究拠点群形成プロジェクトや分野横断的、学際的プロジェクト型研究を進める「研究推進体」を推進し、それぞれ2件、6件のプロジェクトを実施している。研究拠点群形成プロジェクトにおいて優れた実績を上げた肝臓再生療法の研究が「再生・細胞治療研究センター」として山口大学研究推進機構先進科学・イノベーション研究センターの研究拠点の1つに認定されている。

**〔優れた点〕**

- 研究支援の取組として、5年間の時限付きで研究拠点群形成プロジェクトに、3年間で最大20,000千円の支援を行っており、医学系研究科では、研究プロジェクト「多階層システム医学コホート研究・教育拠点の構築—人工知能による予測個別化医療を目指して」や「ナノ・セラノスティクス国際センター」を実施している。研究拠点群形成プロジェクトにおいて優れた実績をあげた場合に、大学研究推進機構先進科学・イノベーション研究センターの研究拠点に認定しており、世界初の肝臓再生療法の研究が評価され、同センターの研究拠点の一つとして「再生・細胞治療研究センター」が認定されている。
- 保健学専攻では、臨床検査値の世界規模基準値比較調査研究に取り組んでおり、基準範囲設定調査の実施プロトコル調和化や統計処理法の最適化を目指すとともに、基準範囲の変動要因として、性差、年齢差、人種差を大規模に探索することを研究目的としている。5大陸から19カ国が参加し、12カ国分の調査結果を基に、2017年（平成29年）に中間解析を行い、（1）新しい統計処理法の妥当性を検証、（2）多くの検査で基準範囲に人種差を認め、世界共通の基準範囲としうる検査は限られること、（3）基準値の年齢差・性差の傾向は、ほぼ世界共通であること、（4）肥満の臨床検査値に及ぼす影響には大きな人種差があること、などを明らかにしている。

**〔特色ある点〕**

- 医学部附属病院 TR 推進助成金制度を設け、毎年数件採択し500万円または1000万円の助成を行い、平成30年度までに特許取得5件、特許申請中16件である。
- 大学と山口県は、文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログ

ラム支援により、既存医薬品では満たされない医療ニーズ「アンメットメディカルニーズ（大製薬企業・大医療機器製造販売企業があまり積極的に進出したがらない）」の解消に向けた取組を推進している。大学が有する革新的医療シーズを基に、山口地域に集積する医療関連の企業群と連携し、固形がんに対する免疫細胞療法をコア技術とした難治がんに対する次世代型 CAR-T 細胞の大量培養法の確立及び細胞培養の自動化システムにおける基盤技術の開発や局所脳冷却をコア技術とした難治性てんかんや重症脳卒中など脳神経外科疾患に対する革新的な治療法の確立と事業化に取り組んでいる。

- 研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図るとともに、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に大学の研究力向上につながると期待できる海外の 10 大学を重点連携大学に選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、14 報、5 報との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。



## 6. 工学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 16 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 17 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

生命医工学センターでは、ヒトの体と医療に対して工学的にアプローチを行い、工学系、医学系、理学系の教員が中心となり、生命医科学研究部門、機器情報医工学研究部門、国際産学連携支援部門を設置し、医薬と医療機器開発を進める研究チームを組織している。200 を超える企業・大学・医療機関・産業支援機関等が参加するやまぐち医療関連成長戦略推進協議会及び県内企業とも連携し、医工学拠点形成を進めている。

#### 〔優れた点〕

- 生命医工学センターは、ヒトの体と医療に対して工学的にアプローチを行い、化学、生物学、数学、物理学を用いて、医療のための物質、情報処理、機械（デバイス）の創造を目指して、工学系、医学系、理学系の教員が中心となり、生命医科学研究部門、機器情報医工学研究部門、国際産学連携支援部門を設置し、医薬と医療機器開発を進める研究チームを組織している。工学部も含めて200 を超える企業・大学・医療機関・産業支援機関等が参加する「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会」及び県内企業とも連携し、大学・企業の先端研究と医療機関の臨床研究を統合した医工学拠点形成を進めている。

#### 〔特色ある点〕

- 研究推進を戦略的に支援する取組として、「特別設備費」（1件／年、9,000千円／年）及び若手教員及び博士後期課程学生を対象に、長期海外研究の場を提供することを目的とした「新長州五傑プログラム」（1件／年、1,000千円／年）を実施し、2016年度（平成28年度）から「次世代若手研究者・女性研究者支援事業」（4件／年、200千円／年を3年間支援）を開始し、科学研究費補助金3件、戦略的研究創造推進事業（科学技術振興機構）1件の獲得、学術論文誌や国際会議の成果発表等に繋がった。
- 工学部（常盤キャンパス）が位置する宇部市と2017年度（平成29年度）から受託研究を締結し、宇部市が設置した「若者クリエイティブコンテナ（YCCU）」において、宇部中心市街地の活性化を図るためのまちづくり研究に取り組んでいる。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、8件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 7. 農学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 19 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 20 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 日本学術振興会研究拠点形成事業「バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成事業」においては、タイ・ドイツ・ベトナム・インドネシア・ラオスにある5大学を海外拠点機関、各国の40大学・機関を協力機関とし、総数で6拠点大学・67協力機関の研究体制で、5つの研究課題に対して、57件の共同研究を実施した。2016年度（平成28年度）68報、2017年度（平成29年度）44報、2018年度（平成30年度）76報の論文を報告し、最終年度の2018年度（平成30年度）の研究交流において、相手国からの日本への訪問延べ人数が、タイ693名、ドイツ43名、ベトナム64名、インドネシア37名、ラオス5名、イギリス7名にもおよび、国際的な研究ネットワークの形成と研究交流を推進した。

〔特色ある点〕

- 第3期中期目標期間において、農学部の専任教員が獲得した大型外部資金（科学研究費補助金以外、第3期中期目標期間中総額8,000千円以上）を以下に示す。
  - ・「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略  
農業・食品産業技術総合研究機構革新的技術開発・緊急展開事業（2016年度（平成28年度）～2018年度（平成30年度））
  - ・売れる麦を核とする中山間水田輪作体系における収益力強化と省力化の実証  
農業・食品産業技術総合研究機構革新的技術開発・緊急展開事業（2016年度（平成28年度）～2019年度（令和元年度））
  - ・ASEAN バイオマス活用に向けた耐熱性微生物を利用するバイオ燃料等変換プロセスの開発（e-ASIA）科学技術振興機構（2017年度（平成29年度）～2019年度（令和元年度））
  - ・国際共同研究パイロット事業（ロシアとの共同公募に基づく共同研究分野）  
（ロシア極東用ネギ属品種育成に向けた分子テクノロジー開発と日露の遺伝資源調査）文部科学省委託事業（2018年度（平成30年度））等

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 高い質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績が、4件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「植物免疫の誘導メカニズム解明と実用化に関する研究」は、学術的に卓越している研究業績である。

## 8. 創成科学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 22 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 23 )

## 分析項目 I 研究活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

積極的な外部研究資金の獲得に取り組んでおり、共同研究費が増加している。また、バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成事業に取り組み、57件の共同研究を実施するほか多数の海外研究者を受け入れ、国際研究ネットワークの形成と国際交流を推進している。

#### 〔優れた点〕

- 創成科学研究科では、積極的な外部資金獲得に努めており、特に 2019 年度（令和元年度）の共同研究費は、2016 年度（平成 28 年度）と比較し、69,134 千円増加した。
- 「バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成事業」においては、タイ・ドイツ・ベトナム・インドネシア・ラオスにある 5 大学を海外拠点機関、各国の 40 大学・機関を協力機関とし、総数で 6 拠点大学・67 協力機関の研究体制で、5 つの研究課題に対して、57 件の共同研究を実施した。2016 年度（平成 28 年度）68 報、2017 年度（平成 29 年度）44 報、2018 年度（平成 30 年度）76 報の論文を報告し、最終年度の 2018 年度（平成 30 年度）の研究交流において、相手国からの日本への訪問延べ人数が、タイ 693 名、ドイツ 43 名、ベトナム 64 名、インドネシア 37 名、ラオス 5 名、イギリス 7 名にもおよび、国際的な研究ネットワークの形成と研究交流を推進した。

#### 〔特色ある点〕

- 中高温微生物研究センターにおいては、公募型の共同研究も含め、発酵・環境・病原微生物の「統合微生物学」の拠点として、また大規模気候変動に対処するための熱帯性微生物資源の活用及び熱帯感染症拡大への対策に資する「中高温微生物研究」の拠点として活動している。
- 生命医工学センターは、医学及び生命科学と工学の幅広い連携を進め、心疾患治療機器開発のための心臓循環系の数理シュミレーションモデルの構築、がん転移・再発予測への数学的統計パターン認識手法の応用等、医学、生命科学分野への先進的な研究開発を進めており、ヒトの体を工学的に解析応用することで、医薬、診断技術、医療機器の開発、さらに地域への医工学の普及、企業への医工学研修から企業と連携を強化した研究成果の実用化を推進している。



- 創成科学研究科の教員が中心となって進めている、社会基盤の効率的な運用および点検・診断と長寿命化に関する研究成果を地域社会に還元するため、2017年度（平成29年度）に、社会基盤施設の適切な管理・長寿命化の課題解決に臨み、これらに関する技術開発と技術者育成を通じて地域に貢献することを目的とした社会基盤マネジメント教育研究センターを設置した。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、16件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 9. 共同獣医学部、共同獣医学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 25 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 26 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

寄附金の受入件数及び受入金額について、平成 29 年度及び平成 30 年度にクラウドファンディングを実施するなど積極的に取り組み、受入件数については、平成 28 年度の 9 件に比べ、平成 30 年度は 42 件と増加している。

#### 〔優れた点〕

- 寄附金受入件数及び受入金額の 2016 年度（平成 28 年度）と 2018 年度（平成 30 年度）を比較すると、受入件数が 9 件から 42 件に大幅に増加しており、これは主には、2017 年度（平成 29 年度）及び 2018 年度（平成 30 年度）に実施したクラウドファンディングによるものである。

#### 〔特色ある点〕

- SFTS（重症熱性血小板減少症候群）に関する研究  
共同獣医学部生体機能学講座獣医微生物学研究室が、2012 年（平成 24 年）に山口県内で、日本において初めてとなる SFTS ウイルスの猫からの分離に成功して以来、地道な研究を続け、2014 年（平成 26 年）には飼い犬から、2015 年（平成 27 年）には飼い猫からも同ウイルスを発見し、ペットから飼い主への感染が可能であることを明らかにした。その後の継続した研究により、ネコで致死的な感染を引き起こすことが明らかとなった一方で、イヌにおける感受性はネコと比較して低いことが明らかとなった。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

**〔判定〕 高い質にある**

### **〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、5件、6件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「動物由来感染症の病態解析並びに診断・予防・治療法の開発」は、学術的にも社会・経済・文化的にも卓越している研究業績である。

## 10. 国際総合科学部

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 28 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 28 )

**分析項目Ⅰ 研究活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 11. 東アジア研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 30 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 31 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

研究科内外の研究者による共同研究を推進するコラボ研究推進体構想に基づいて、毎年4つのプロジェクトを立ち上げて共同研究を実施している。研究成果は、学術雑誌「東アジア研究」に掲載されている。また、平成29年度と令和元年度には、『東アジアにおける医療福祉制度の持続可能性』と『成長するアジアにおける教育と文化交流』を表題とする山口大学大学院東アジア研究科研究叢書を発刊するとともに、国際的な研究活動を展開している。

#### 〔優れた点〕

- 研究科内外の研究者による共同研究を推進するというコラボ研究推進体構想に基づいて、毎年4つのプロジェクトを立ち上げて共同研究を実施している。研究成果については、学術雑誌「東アジア研究」に掲載している。また、平成29年度と令和元年度にはそれぞれ、『東アジアにおける医療福祉制度の持続可能性』と『成長するアジアにおける教育と文化交流』を表題とする山口大学大学院東アジア研究科研究叢書を発刊した。

#### 〔特色ある点〕

- 外部研究者を組織的研究体制に組み入れ、共同研究を推進するというコラボ研究推進体構想に基づく、プロジェクト型の共同研究を実施している。大学研究推進機構にURAを配置し、重点プロジェクト支援、外部資金獲得支援等を行う体制を整えている。
- 2016年度（平成28年度）から2019年度（令和元年度）までの科研費獲得件数は、基盤研究Aが4件、基盤研究Bが6件、基盤研究Cが45件、挑戦的研究（開拓・萌芽）が5件、その他が3件、計63件となっており、平均年獲得件数は15.75件となっている。特に、基盤研究Aと基盤研究Bは「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」や「ジェンダーの視点から見た日本・韓国・ドイツの非正規労働の比較調査研究」などといった東アジアを中心とする国際共同研究を実施した。



**分析項目Ⅱ 研究成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

学術的に卓越している研究業績が、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

## 12. 技術経営研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 33 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 34 )

**分析項目 I 研究活動の状況****〔判定〕 高い質にある****〔判断理由〕**

研究活動の基本的な質を実現している。

技術・経営の実務家教員及び産業界と連携して教育を行ってきた教員で構成された実理融合型の組織編成となっている。また、積極的にアジア諸国との連携を展開し、組織の特徴を活かした事業を実施するなど、受託状況は平成 28 年度から令和元年度にかけて計 13 件、総額約 36,000 千円を獲得している。

**〔優れた点〕**

- 山口大学では、2017 年（平成 29 年）1 月から、共同研究や受託研究で取り扱うことが困難であった学術指導やコンサルティング等の産学連携案件について、大学の施設・設備を利用し、職務として行えるよう学術指導制度を新設した。利用しやすい制度として企業にも広く浸透したことで、件数、指導料とも年々増加し、技術経営研究科においても受託事業収入増につながっている。技術経営研究科ではアジア地域の社会経済の実情を知り、技術経営の立場から問題解決を図るため、同地域に関わる受託事業を推進している。例えば「ラオス日本センター民間セクター開発支援能力強化プロジェクト」や「ネパール国 2018 年経済センサス実施に向けた中央統計局能力強化プロジェクト」などが挙げられる。受託状況は 2016 年度（平成 28 年度）から 2019 年度（令和元年度）にかけて計 13 件、総額約 36,000 千円を獲得している。
- 2016 年（平成 28 年）11 月にはマレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院（MJIT）に知的財産権の教育・研究に特化した国際連携講座を設立し、知的財産を活用したビジネスに関わる研究を行っている。また、2017 年（平成 29 年）11 月にはバンドン工科大学（インドネシア）と共同で国際連携講座を設立し、新興国における技術経営およびイノベーションに関する教育研究を行っている。

**〔特色ある点〕**

- 地域社会・地域産業における課題解決や新たな価値を創造する研究を実施するため、専任教員のうち 6 名は、製造企業の研究開発部門・事業部門の責任者、企業の海外現地法人役員、知的財産権に関わる高度な知識と経験を有する特許審査官等の技術・経営の実務家教員であり、理論と実践が融合した研究体制となっている。

- マレーシアのマラ工科大学との国際クロスアポイントにより、女性研究者1名を、講師（特命）として採用した。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

学術的に優れている研究業績、社会・経済・文化的に優れている研究業績があり、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。